

8-6

認知症の方の施設内での逆デイを取り入れた空間づくり

認知症ケア

空間作り

しせいとくべつようごろうじん
至誠特別養護老人ホーム

5階介護主任 かない りさ
金井 理紗

統括主任 さくらい もちよ
桜井 桃世

立川市錦町6-28-15

TEL : 042-527-0032

E-mail : nishiki-tokuyo@shisei.or.jp

FAX : 042-527-0061

URL : http://www.shisei.or.jp/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

至誠ホームは高齢者総合福祉施設として、昭和26年に養護老人ホームを開設以来半世紀以上にわたり立川の地において高齢者福祉を担い、その時代や地域のニーズに応じた事業を先駆的に展開してきました。至誠特別養護老人ホームは昭和52年に開設し、現在150名の高齢者が4フロアで生活されております。

〈取り組んだ課題〉

- 重度認知症フロア特有の安全を考えた環境整備
- 認知症の方1人1人への空間づくり
- 集団生活から小規模な居住空間への土台づくり
- 逆デイ（施設内）の定着と継続

〈具体的な取り組み〉

- 身体面・精神面を考慮し社会性を十分に引き出せるグループ分け
- コミュニケーションの媒体へと装飾品の工夫
 - ・ 回想療法とバラエティを組み込んだ装飾
 - ・ 誕生月毎の紹介写真の掲示
- ボランティアとの関係構築
 - ・ アンケートの実施
 - ・ 逆デイの目的を周知徹底
 - ・ 利用者紹介ファイルの作成
- グループ別での逆デイを始めとする活動の実施
 - ・ グループダイナミクスを展開させる活動提供
 - ・ 1人1人の存在感を引き出せるグループメンバーの調整
- フロア全体に空間づくり
 - ・ 廊下に（和）（寛）（憩）と称したスペース確保
 - ・ DR内座席の検討
 - ・ 畳や障子を用いてくつろげる空間づくり

〈活動の成果と評価〉

- 環境整備をすることで、これまで不安や独自の世界間が強く孤立してしまいがちだった方の居場所が確保されるとともに、不安解消にもつながった。
- 社交性を重視したグループ分けを行うことで1人1人の存在感の発揮と、グループダイナミクスが展開された。
- ボランティアも取り組みに参加してもらうことで、存在価値の再認識し意欲向上につながった。
- 逆デイの実施と、フロア内の環境整備という2つの改善から、濃厚なケアへ発展することができた。

〈今後の課題〉

今回の取り組みは、活動グループを中心とした取り組みになってしまったため、今後はセンター方式などを用いて1人1人の空間・背景を重視し、より「その人らしさ」を追求した環境づくりを展開させていく。

〈参考資料など〉

平成17年度 東京都認知症介護実践リーダー研修内での「自施設実習」にて、フロア全職員に「疑似体験研修」を位置づけた。その研修にて感じた不安・疎外感や、これらを見据えたケア・環境のあり方を考察し、今回の取り組みに反映させた。